



ふじのくにユースネット

FUJINOKUNI YOUTHNET

特集を Check !



わたしの主張 2023 静岡県大会を開催しました

11月は子供・若者育成支援推進強調月間です
静岡県青少年育成会議では、子供・若者たちの明るい未来のため、「地域の子供は、地域の大人が育てる」をテーマに、毎年県大会を開催しています。

静岡県大会 in 函南町

開催日：11月18日(土)
会場：函南町文化センター 大ホール

基調講演

繋ぐ～バレーボールが教えてくれたこと～
講師：大山 加奈 氏
(元バレーボール女子日本代表)



令和5年6月15日に開催しました



情報交換会

静岡県青少年育成会議では、 青少年健全育成事業に対して補助金を交付しています

令和4年度は、8つの事業に対して補助を決定しました。その一部を紹介します。

レク楽のひろば
・レクリエーションの紹介・普及と指導者養成
(レク楽の会)



下田市青少年健全育成連絡協議会・
下田市青少年補導センター合同研修会
・講演テーマ
「コミュニティスクールと地域学校協働本部について」
(下田市青少年健全育成連絡協議会)



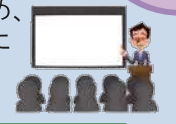
社会的養護のもとで育つ子どもの理解促進
・ファミリーホームの普及啓発
(静岡大学)



青少年のための
インターネット安全利用啓発事業
・インターネット安全利用のため学習教材作成、
啓発講座の実施
(特定非営利活動法人 e-Lunch)



県民運動推進事業費補助金とは・・・
青少年育成県民運動の積極的な展開を図るため、
青少年健全育成事業を実施する正会員の皆様に
交付する補助金です。



参加者同士で、
活発な意見交換が行われました。



令和4年度 青少年育成支援に係る研修会 報告

開催日：令和5年2月20日
場所：静岡県立三方原学園(児童自立支援施設)
参加者：31人



職員の方のお話を聞き、施設内を見学しました。

【編集・発行】 【入会問合わせ】
静岡県青少年育成会議事務局
〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号
静岡県教育委員会社会教育課内
TEL:054-221-3305 FAX:054-221-3362
Email:kyoui_shakyo@pref.shizuoka.lg.jp

Contents

P.2-3 特集
わたしの主張 2023 静岡県大会
・最優秀賞作文
・出場者発表要旨

P.4
令和4年度県民運動推進事業費補助金交付事業紹介
令和4年度青少年育成支援に係る研修会 報告



第45回 わたしの主張 2023

～今、中学生が伝えたいこと～

静岡県大会 in 長泉町
開催日：令和5年8月22日（火）
場所：長泉町文化センター
ヘルフォーレ

最優秀賞

応募者11,487人の中から、13人が出場しました

過疎化から地域を救う取材

沼津市立長井崎小中一貫学校 9年 大城 柚稀

私は、『うらっち』の活動を始めてから文章を書くことがとても好きになりました。『うらっち』とは、内浦、西浦地区の子もたちが、プロのクリエイターからそれぞれの専門的な講義を受け、自分の住む地域や町を取材して作る、地元情報誌のことです。私はこのプロジェクトに4年間参加し続けており、その根底には、地元愛を超えるほどの熱い思いがあります。その思いをお話しすると共に、まずは取材を通して得た内浦、西浦地区の実態と問題を紹介していきます。

過疎問題。あなたは知っていますか。人口の急激な減少により、地域住民の生活水準や生産機能が一定のレベルを維持できない状態が進行していることを「過疎化」といいます。日本では、国土の約6割がそれに該当します。人口流出が著しい内浦、西浦地区も例外ではなく、この地域では就ける仕事がないからと都市部へ出て行ってしまいう人が多くいます。私が取材で訪れた地元の飲食店や観光施設で働いている人たちはとても温かく、人のつながりを大切にしている精神が地域の根幹を支えていることが分かりました。都市部とはまた違ったその魅力に気づかず、この地域を離れてしまった人もいたのではないのでしょうか。私はとても残念に思います。

少子化も過疎問題と深く関わっています。今年度、長井崎小中一貫学校に入学した1年生の数は7人。現在、全校で約120名いる児童生徒は、令和10年度には約60名に半減するとされています。このままでは近い将来地元から人や子どもが消えてしまいます。この状況をどうにかしたい。この地域を守るために、私ができることは何だろうか。私はずっと考えていました。そして、それは地域について詳しくなり、より多くの人に地元の魅力を発信していくことこそが、私にできることではないかと思いました。

『うらっち』では、地元で有名なお店や、地元のお祭りの特集、地元の特産品であるみかんの収穫について書くなど、徹底的に地元に着目することを意識して記事を書きました。完成品を友人に読んでもらったとき、「地元にはこんないいお店があるんだね。知らなかった!」

と言ってもらえました。長く住んでいても、まだ知らない魅力がたくさんあることを取材と友人の言葉を通して確信しました。また、取材を通してハローワークやワークショップの開催に着目し、内浦、西浦地区で開催すれば、子どもたちがお店や施設を訪れる職業体験につながり、地域にはどんなお店や仕事があるのかを知ってもらえる機会になると思いました。私の父のような漁師や、農家の方から仕事について話をさせていただいて、見学した子どもたちが知識を広めることで、両者のインプットとアウトプットが成立するのにも利点です。実際に働いている人も仕事の魅力や改善点を再確認できると思います。天城地区の「にじの子タウン」というイベントでは、旧校舎を活用し、さまざまな仕事を子どもたちが体験でき、これも地元活性化のヒントになると考えました。

これらの活動を実践し、成功すれば地域の印象がより良くなるはず。『うらっち』の文章を考えているときに編集部の方にこう尋ねられました。「この活動のやりがいって何?」私はそのとき、『うらっち』を通して、いつか多くの方が内浦、西浦地区で就職をして住み続けるきっかけを作ることだと思いました。人口が増え、幅広い世代の人たちがこの地域で豊かな暮らしを送る。そうなれば、今よりもっとやりがいを実感できると思います。


これからも編集リーダーとして、地元に住んでいる一人として、地域を知り発信することで、地域の問題を改善する第一歩としていきたいと思っています。





最優秀賞は、全国大会出場候補として
関東・甲信越静ブロックへ推薦されます!

- 主催 静岡県教育委員会
静岡県青少年育成会議
独立行政法人国立青少年教育振興機構
- 共催 長泉町教育委員会
- 後援 静岡県校長会
公益社団法人静岡県私学協会
静岡県PTA連絡協議会
静岡県私学保護者会
- 協賛 静岡県遊技業協同組合

優秀賞

- 共感賞**


知ることから始まる平和
浜松市立与進中学校 3年 鈴木 優菜
修学旅行の平和学習をきっかけに、平和のために中学生の私でもできることについて考えました。戦争にもっと関心を持ち、そこに生きていた人達に思いを寄せることの大切さをヒロシマの地で気づきました。私達が、今一番しなければならないことは、戦争を「知る」ことなのです。
- 

SDG'sのプロ～The じいさんズと私～
沼津市立片浜中学校 3年 杉山 奈生
私の身の回りには「じいさんズ」は物を大切にします。またそれを活用し、再利用して使う知恵を持っている、いわばSDG'sのプロです。私達若い世代が「高齢化社会」を自分ごととして、良い方向に捉え、お年寄りと積極的に関わって明るく楽しいコミュニティを目指していきたいです。
- 

一人一人の物語
浜松市立北星中学校 3年 尾嶋 奏亮
中国で3年間暮らした経験から、情報社会の中でおこる思いこみや偏見にとらわれない重要性を伝えていきたいです。誰もが物語をもっていて、それは簡単に他人が決めてつけてしまってもよいものではありません。自分の五感で感じることが大切ということを知ってほしいです。

優良賞

- みんなが幸せになれる値段
裾野市立西中学校 3年 笹原 怜夏
修学旅行で見かけた一枚のスマホ拭き。私はその値段を見てとても高いと思いました。しかし、それはふさわしい値段だったのです。私たちの身の周りの物もただ高い値段なのではなく、みんなの幸せのための値段です。そう思える人が一人でも多く増えてほしいです。
- 「私とAIと未来」
静岡雙葉中学校 3年 渡邊 未桜子
これから先の未来において私達人間とAIとの関わり合いは、今以上に切り離せないものになっていくだろうと思います。人間とAIの能力に優劣をつけるということではなく、双方の「得意分野」を活かし、可能性の広がっていく世界について考えてみました。
- 投票が当たり前になる社会を目指して
静岡市立城内中学校 3年 青島 庵
日本の選挙は、投票率の低さが課題の一つとなっています。私は、生徒会副会長の経験を通し、多くの人が活動に興味を持ち支持されることでやりがいを感じました。現在の日本の投票率を上げるためには、SNS等で発信し、若者を含めた広い世代に政治に関心を持ってもらうことが必要です。
- 多様性をあたりまえに
森町立森中学校 3年 水谷 結衣
中学生になり、進路について考えることが多くあります。そんなとき、いつも私は嘘をついてばかりだと思うのです。しかし、私のように自分の思いを伝えられない人は他にもいるのではないのでしょうか。みんなが自分の気持ちを主張できるような世の中にしたいと思い、私の本心を書きました。
- 「人は必要なときに必要な人と出会う」
静岡県西遠女子学園中学校 3年 大村 ももの
「人は必要なときに必要な人と出会う」の真意を知った私は、「直接顔を合わせ向き合う機会の充実」を求めます。人との出会いを通して、みんなが誰かを必要とし、みんなが誰かの必要な人となる経験を重ねることが、必要なときに必要な助け合いができる社会作りの第一歩だと私は考えます。
- この絵、批評するべからず
三島市立南中学校 3年 宮澤 南央
何気ない友人とのやりとりをきっかけに、「私らしさ」について考えると、立場によってその捉え方に違いがあることに気がつきました。他者への見方を理解し、その人のありのままの姿を受け入れることで、誰もが自分らしく生きられる社会をつくっていききたいです。
- 「私が望む未来のためにできること」
袋井市立浅羽中学校 3年 寺井 綺沙咲
中学校生活をはじめとする経験が増えるにつれ、望む未来に対して自分にできることを考えるようになりました。障がいや理由に、自信や自分らしさを失い、周りからの視線や差別に悩む人が大勢いると思います。「誰もが生きやすい社会である」と断言できるよう、私の思いや決意を主張しました。
- 虹の魔法で自分を見つめる
静岡市立末広中学校 3年 伊東 千沙希
自分の心や感情をコントロールする7色の「虹の魔法」。この魔法で心のスイッチを切り替えて、自分と向き合い、自分を見つめてみましょう。集団や周りを気にして自分を出せずにいるのはもったいないことです。生きづらい世の中がそれぞれの個性を認め合える世の中になってほしいです。
- 伝える勇氣
長泉町立長泉中学校 3年 村岡 真帆
小学校高学年頃から自分の意見や考えを发表することができなくなってきました。話し合いでも、大多数の意見に合わせてしまう自分がいました。そんなとき、あることがきっかけで自分の思いを自身の言葉で表明したいという気持ちがわいてきて、主張することの大切さについて考えました。



中学生審査員代表



アトラクション
長泉町立北中学校吹奏楽部による演奏と、長泉新体操クラブ スポーツ少年団によるパフォーマンスを披露していただきました。

共感賞とは…
来場した中学生が投票して選ぶ特別賞です。発表の中から、「わかるな」「そうなってほしいな」など、最も共感を得た発表者が選ばれます。